

令和5年度 家庭教育支援プログラム指導者研修① 実施報告

実施日：令和5年5月24日（水）

【午前の研修】

○ 開講式

○ 説明「本県の家庭教育支援について」 栃木県教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事 佐藤 正明

始めに、近年の家庭教育をめぐる状況について、文部科学省で行った意識調査の結果をもとに説明がありました。その後、栃木県で行われている家庭教育支援事業について説明がありました。

受講者は、家庭教育支援プログラム普及定着事業や家庭教育オピニオンリーダーの養成、家庭・地域いじめ対策教育支援事業などについて理解を深めました。



○ 説明「参加型学習と家庭教育支援プログラムとは」 総合教育センター生涯学習部職員

参加型学習である家庭教育支援プログラムの活用によって参加者に期待される効果や、よりよい学びの場とするための指導者の役割、家庭教育支援プログラムの種類や基本構成などについて、説明がありました。受講者は、家庭教育支援プログラムのねらいや概要を知ることができました。

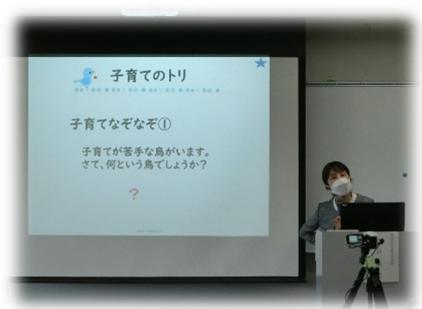


【午後の研修】

○ 講話「家庭教育の現状と課題、及びその方策について」 元宇都宮共和大学教授 土沢 薫 氏

子育て事情について研究を重ねている土沢氏から、「こども家庭庁」や「こども基本法」、我が国の子育て事情と課題、子どもの発達と大人の関わりなどについての講話を聞きました。

その中で、孤独感や強い不安を抱えている親に対して、確かなつながりや安心感を与えられるような支援が必要不可欠であると繰り返し話されました。また、子どもの発達段階に応じた大人の役目について考える「こころの育ちのみちすじ」の話では、実生活における子どもと関わる様々な場面での大人の対応に関して解説がありました。受講者とともに考えていく内容で、大変参考になったようです。



具体例を挙げながらの分かりやすい説明を、頷きながら聞く受講者の姿が多く見られました。

☆受講者の声（アンケートから）

- ・ 出産後の母親が不安や孤独を感じやすくなっている時に、周りに相談できる人がいない社会になっていることを改めて感じました。
- ・ 「親学習プログラム」のワークや資料を初めて知りました。学校現場への紹介や周知をする必要があると感じました。
- ・ 子育てを頑張っている人に「ゆとり」を与えられるような支え方をしていけたら、子育てを楽しめる人たちが増えて、子どもを産みたいと思う人たちが増えるかなと思いました。支援してきたいです。
- ・ 子育てをする方たちの不安を少しでも取り除き、安心して子育てできる環境を作りたいです。
- ・ 家庭教育支援に関して、栃木県の取組体制が素晴らしくありがたいと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp